



風甘しいくら喰っても  
空きっ腹 (三春)



ぜんまいののの字連ねて背伸びかな (アキヤ)

寸 評：

1) 菜の花が教えてくれる遠近法 池田 隆

晴天のもと川と菜の花と道路が並行して走り、地平線で一点に交わる、都会ではお目にかかれぬ風景だ。遠近法という耳慣れない言葉を菜の花に教わるという洒落た措辞が巧みだ。

2) 漂流の記憶再び春嵐 松田 昌康

水平線と海岸線をバックに漂着した朽木。なんとも象徴的な画面で見るとしていろいろな思いを惹起させる効果がある。画像が素敵なわりに句は表現がやや硬く春嵐の季語があまり効いていないのが残念だ。

3) デーゼルは森の天敵みどりの日 安藤 晃二

みどりを愛でる気持ちはわかるが、上5中7の措辞が安易すぎてインパクトが感ぜられない。

4) 空に海に余生悠遊鯉のぼり 大越 浩平

清流に映る鯉のぼり。撮影技術は素晴らしいものがあるが、句は支離滅裂。鯉のぼりと、空に海に、余生悠遊との関連性が常人には理解しがたいものがある。短詩型で全てを表現するのは困難なので「清流に影を落として鯉のぼり」のように単純化したい。

5) 風甘しいくら喰っても空きっ腹

三春

写真はスッキリとピントが合っているのが取り柄。句は川柳調で、なんともコメントがし辛い程度のレベル。

6) ぜんまいののの字連ねて背伸びかな

中村 晃也

水辺に生えた薔（ぜんまい）。のの字と洒落たところがミソ。

## 句付

今月のお題写真は矢澤さんの提供。水平線上の大型船を砂浜から見ている風景です。



寸 評：

1) 日本丸黒字積みすぎ立ち往生 大月 和彦

立ち往生するほど日本丸の黒字は大きいのでしょうか？

2) あれは何ついに来たのか難民船 矢澤 正二

ボートピープルはアフリカの難民の話と楽観していたが、アジアにも余波が及ぶ恐怖感。

3) 荷を積んで燃料切れの北の船 中村 晃也

国連による経済制裁で燃料不足に苦しむ北の国

4) 脱北か拉致かはたまた侵犯か 大越 浩平

不審船を見ると誰もが思う事柄です。

5) 難民の叫び届かず過ぎる船 松田 昌康

砂浜の見物人は難民にしては服装が良すぎるが？

6) 皆の衆あれが噂の黒船だ 三 春

今どき黒船を話題にするなんて時代感覚がヤヤずれているのでは？